



塾全協新聞

題字：怜齋(白川亮 進ゼミ柏)

発行：NPO法人学習塾全国連合協議会
全国事務局長・東日本ブロック
広報局長：中村基和
発行日：2020年(令和2年)4月

民間教育自立論

NPO 塾全協 全国会長 沼田広慶 (千葉県松戸市 北辰館スクール)



1808年、ナポレオン占領下のベルリンにおいて行われたフィヒテの講演「ドイツ国民に告ぐ」は公教育による国民改造を訴えました。ドイツの自由と独立のためには国民教育の徹底が必要とされたのです。当時の時代背景は現代の日本とは全く違っていますが、国家存立の基盤が教育にあることに変わりはありません。ナポレオンを批判した著者不明の書物を出版した書店の経営者がナポレオンの命によって銃殺された時代に、文字通り命がけで行った講演ですが、日本の教育の現状を思うと、フィヒテのような強い信念と勇気をもって教育の改革を訴える必要があるように思います。

大学入試改革の挫折と混迷はこの国の存立を根底から揺るがしかねない危機を惹起せしめています。文部行政は国際化と高度情報化社会への対応に明らかな後れを取っています。このまま八方ふさがりの状況が続けば、日本は将来の国を背負う人材育成に失敗し、国家が政治的にも経済的にも社会的にも破綻する恐れがあります。国家安全保障の上からも重大な脅威です。すでに、この国の若者には看過できない兆候が表れています。「2019年版子ども・若者白書」によれば、自己肯定感を持たない者が多いということです。これでは激しい国際競争社会において日本は押しつぶされる運命しか待っていません。まして、国際社会は不透明感を増しています。一方では共生と多様性が新しい価値観として叫ばれていますが、地球の潮流は混とんとしています。

インターネットやAIの発達は高速な情報処理と地球規模の情報共有を実現していますが、技術情報の窃取という新たな情報戦争を引き起こしています。クラウドや電

子マネーの普及発展はさらなる危機を孕んでいます。一瞬にして世界経済が崩壊するのです。まさに悪夢といえましょう。世界の富の偏在はとくに社会の安定維持の臨界点を超えています。難民問題も解決の道筋が見えません。ネオナチズムが世界中に台頭しつつあり、再び全体主義が跋扈する世の中が軍靴の響きとともに近づいてくるのを感じているのは私だけでしょうか。米露 INF 全廃条約の失効は核戦争による人類滅亡への時計の針を確実に進めています。香港の民主化を求める大規模デモは選挙で民主派を大勝させましたが、中国共産党の巻き返しが起こるのは火を見るより明らかでしょう。温暖化現象が世界中に被害をもたらしている中で米国は「パリ協定」からの離脱を国連に通告しました。国際協調は大国の国益追求の前に画餅に帰したのです。イギリスは本年1月末をもってEUを離脱しました。この影響は様々な意味において大きなものがあるでしょう。端的に言って、「共生」は世界の辞書には存在しないのです。宗教・民族問題も根が深く、「多様性」を目指す人類の理想とはかけ離れた現実を見せています。平和の祭典オリパラに熱狂するのもいいでしょう。しかし、この国の国民の大半はテレビやインターネットからとめどもなく流れる低俗な情報に脳の中樞神経を麻痺させられています。ヒトラー率いるナチスドイツでベルリンオリンピックが開催されたのは1936年8月ですが、その3年後、ナチスドイツはポーランドに侵攻しました。第2次世界大戦の勃発です。今夏の祭典が終わってからの世界がどうなるか。ベルリン後の世界のようにならないことを祈るしかありません。

公教育の破綻は国家の破綻を導きます。官に頼れないならば民が自立し、この国の根幹を支える責務を担わなければなりません。官が主導する教育の時代は終わったのです。これからは民が主導すべきです。民間教育の自立を唱える所以です。外国語教育もコンピュータ教育も民が対応すべきです。文科省はいつそのこと一旦解体すべきでしょう。しかし、民も拝金主義を排し、国を支える気概を持つべきです。私利私欲の塊ではいけません。資本主義は自由な経済活動によって利潤を追求しますが、それは良しとしても、それだけでは社会そのものがいずれ崩壊します。社会的責任を自覚し、社会への還元という視点を持つべきでしょう。柔道を創設した嘉納治五郎は「自他共栄」の精神を唱えましたが、これは全人類が心して実践すべき課題でしょう。

塾業界の現状はしかし、目標とはあまりにもかけ離れていることを認めないわけにはいきません。団体活動に参加している塾はわずか数%に過ぎず、4万とも5万とも言われている塾の全体を把握することもできていません。他の業界と比較するのも愚かというべきでしょう。学習塾だけではなく、広く民間教育のまとまりを模索する動きもありますが、まだ緒に就いたばかりです。何よりも塾人の覚醒と協力が必要です。大手塾は大手塾なりに、中小塾は中小塾なりに、個人塾は個人塾なりに、方法は違っても志は一つにしなければなりません。気の遠くなるような道りですが、塾がこの国の教育を支えるという意思を共有し、その意思をもって業界としての団結をしなければ民が主導する教育は不可能でしょう。

それこそ机上の空論です。

人材育成はこの国の喫緊の課題です。いかなる時代の波が押し寄せようとも自ら考え、判断できる人材が必要なのです。語学やコンピュータの技術的能力ではありません。人間や社会に対する深い洞察力や豊かな感受性も大切です。そのためには文学・歴史・哲学の素養も必要でしょう。世の中の流れに柔軟に対応しながらも、正義と理想を見失わない人材が求められているのです。硬直化した官による教育は打破しなければなりません。今こそ民が立ち上がる時です。

官に左右されてはなりません。民がこの国の教育を主導し、官による公教育は必要最小限にすべきです。民間における自由な教育こそが有為な人材を育成する絶対条件であり、自由な教育こそが市民社会を活性化し、その国の自立と繁栄を約束するのです。困難な課題であることは承知の上です。しかし、この国の教育の現状を憂え、あえてここに民間教育の自立を強く訴え、新年度を迎えるの所感とします。

教育力を発揮する時

NPO 塾全協 東日本ブロック 理事長

内藤潤司 (埼玉県狭山市 ソロモン総合学院)



2月の末に突然、携帯に教え子から電話がかかりました。「先生、3月25日塾の創立記念日ですよ。今年、44周年ですか、それとも45周年ですか」彼は、二期生ですので、もう50歳を優に超えています。一年に何回か電話をくれ、今、警視として某警察署の署長をしています。「なんで、創立記念日を知っているの」との問いに、「時々、ソロモンのホームページを見ているのですよ」という意外な答えに驚き。「何周年かを聞いたのは、言うとはサプライズにならないのですが、ちょっとした物を送りたいのです。」という返事に二度びっくり。塾を卒業して、40年を過ぎるのに、忘れずにいてくれただけで十分なのに、ただ、ただ感謝の思いに心の中が熱いもので満たされました。

開塾して、塾が軌道に乗り、中学生のクラスが定員に達し、申込を断るようになった時、今の本館を建築致しました。このときに基本的な塾の形を決めました。塾生の総定員数を決め、分教室を作らない。分教室を作らないという方針は、何度もこれでいいのかと自問したものです。入会したいという人がいるのだから、受け入れてあげればと。

よく、大手塾に対して、中小「零細」塾と自虐的に言う方がいますが、私には、納得できません。多様な子供たちに対応し教育するために、生徒の数はとても重要です。何度も言いますが、何千人規模の民間教育機関があるのは、私の知る限りでは、韓国、台湾、中国そして日本です。ドイツ、イギリ

ス、フランスには、ありません。イギリスの名門イトン校を数年前に訪問いたしましたが、一学年120名でした。長い伝統の中で培われた経験に基づく規模なのでしょう。

今回のコロナウイルス騒動は、まだ終息していません。皆さんもご苦労なさっていることと思います。しかし、我々NPO塾全協の会員塾は規

模が大きくない塾が多いので、大手よりも対応がしやすいのではないのでしょうか。個別呼び出し指導、電話相談及び解説、素早いオンラインの立ち上げなど細かな対応することにより、保護者と生徒の信頼を勝ち取るものと確信しています。そして、NPO塾全協の役割は、情報と経験を共有して会員同士の信頼関係を深めるところにあると強く思います。

中1ギャップを学習塾を活用して乗り切ろう

NPO 塾全協 東日本ブロック 事務局長 中山和行 (埼玉県比企郡 中山塾)



「中1ギャップ」とは小学生が新中1生になったときに新しい環境(学習・生活・人間関係)になじめないことから様々な問題が生じてくる現象です。

学習面では、小学校のテストは基礎・基本が理解できているかをその都度確認するためのテストですが、中学校の中間・期末テストはある程度広い範囲からまとまって出題されます。そのため勉強の習慣のあまりない生徒はテストに対応できず、小学校のときのように得点が取れません。成績が下がり、やる気を失くして授業についていけなくなる生徒が2学期あたりから急増していきます。

そのために学習塾では**授業の受け方・宿題のやり方・復習のし方・中間期末の勉強のし方**などを丁寧に指導していきます。中学1年を勉強と部活・学校生活を上手に乗り切るには塾での学習は不可欠です。このことはここ数年で強く実感していることです。学習塾の存在意義は益々高まっています。

4月からまた、新しい学年となり、新たな出会いがまっています。

「わかった!」とってくれる笑顔があります。楽しみです。

塾の先生はやめられませんね。

今できる事

望月玄一郎 (埼玉県ふじみ野市 OMEGA 個別指導)



世の中、嫌なニュースばかりですね。コロナウイルスの広がり、イベントは中止、レストランは、ガラガラ、美容院は60%減、旅行はキャンセル、株は大幅ダウン、塾は休業。子供たちは学校が休みでも行きたいところも休みで、家でひっそり。今までこんな時ありませんでした。このままずっとこんな感じになるやも知れません。ネットでは、これはどこかの国の陰謀でウイルスを中国に撒いて中国を滅ぼすために行ったなどという動画もあります。世界の終わり?の予兆でしょうか。

いやいや、こんな時だから、今できる事を考えたいと思います。

まず、今更ですが小学校で正式に英語が授業対策です。塾用教材を見たら随分中学校の授業と離れているような内容でした。文法中心の授業だと追いつかない量ですね。過去形なども小6の教材に早く出てくるそうですし、単語の量もかなり多いようです。小学校の教科書か、中学校の内容に向けてか?両方やればいいんですね。

大手塾さんが塾をお休みしていますが、その間にしっかり生徒や保護者にアピールしましょう。三者面談や保護者会、家庭用教材、インターネットを使った授業などいろいろ出来そうですね。ピンチはチャンス。

こんな時だからこそ、ポジティブに「今できる事をしっかりやる」でありたいと思います。

NPO 塾全協東日本ブロックの1年 (2019年4月~2020年2月)

NPO 塾全協東日本ブロック主催現地研修会

東京の歴史を歩く会 (第4回)

東海道品川宿~赤穂浪士から幕末攘夷の時代を歩く~

日時: 2019年4月7日(日) 13:30~17:00

場所: 品川~泉岳寺その他~品川

解説: 倉橋稔氏(四十七士の一人倉橋伝助武幸の子孫!)

参加者: 9名



倉橋氏から興味深いお話を色々聞く事が出来ました。



NPO 塾全協東日本ブロック総会全国総会

日時: 2019年5月26日(日) 13:00~15:30、16:00~19:30

場所: TKP カンファレンスセンター日本橋

中高入試を考える会、新年度情報交換会

日時: 2019年5月26日(日) 16:00~19:30 場所: 同上

講師 中学入試: 森上展安氏(森上教育研究所 代表取締役社長)

高校入試: [東京] 穴澤嘉彦氏(新教育研究協会 営業次長)

[千葉] 五十嵐裕明氏(進学研究会 教育研究所主任研究員)

[埼玉] 池田亨氏(エデュケイショナルネットワーク 情報企画部データ課)

総会の承認を経て以下の文がNPO 塾全協内規に追加されました。

会長及び理事長経験のある常任理事は、全国常任理事会の承認を経て、必要に応じて、対外的にも顧問を名乗ることが出来るものとする。ただし、これはあくまでも瓶議場のものであって、これによって常任理事としての権限を失うものではない。



千葉地区研修会

テーマ: オンライン英会話の体験その他

日時: 2019年(令和元年)6月24日(月) 11:00~14:30

場所: 久利船(千葉県柏市)



民間教育推進のための自民党国会議員連盟総会に参加

日時:2019年(令和元年)6月25日(火)11:00~12:00 場所:衆議院第二議員会館 参加団体:NPO 塾全協ほか学習塾5団体、その他。

沼田会長が部活動の行き過ぎた現状を語り、行政への要望を出しました。



3つの進学相談会

① 第40回 私立中高進学相談会

日時:2019年9月16日(月・祝)11:00~15:30 場所:新宿NSビル イベントホール ブース参加校:119校 来場者数:約420名



② 第31回 (千葉地区) 私立中高進学相談会

日時:2019年9月23日(月・祝)13:00~17:00 場所:ザ・クレストホテル柏 ブース参加校:37校 来場者数:約700名



③ 第32回 (埼玉地区) 私立中高進学相談会

日時:2019年9月29日(日)15:00~18:15 場所:川越プリンスホテル ブース参加校:38校 来場者数:約813名



私塾ネット・関東エリア+NPO 塾全協東日本ブロック合同研修会

テーマ: 塾におけるインクルーシブ教育ってどんなもの?

日時: 2019年(令和元年)10月20日(日) 14:30~17:00 場所: ワイム貸会議室 お茶の水 ROOM D

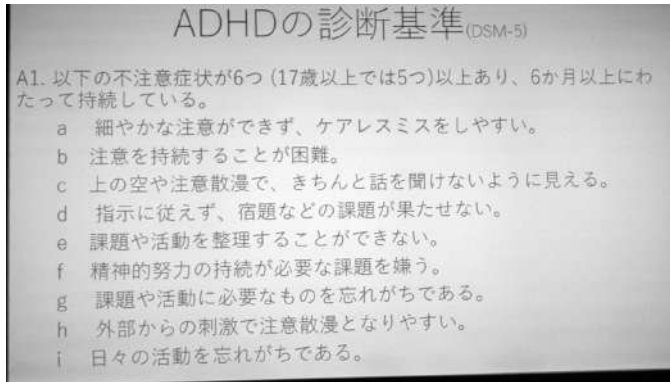
主催: 私塾ネット関東エリア+NPO 塾全協東日本ブロック 参加者数: 約40名

講師: 導入...柳田浩靖氏(日米文化学院代表)

ワークショップ...伊川夢起氏(宇都宮LDセンター長、特別支援教育士)



*他団体との合同研修会は初めての企画でした。



第45回 NPO 塾全協 全国研修大会

担当: NPO 塾全協西日本ブロック

日時: 2019年(令和元年)11月4日(月・振休) 場所: 道頓堀ホテル

テーマ: 浪速から日本の教育を考える 参加者数: 58名

第一部 講演会 オリンピックメダリストから人材育成を

講師: 朝原宣治氏(北京オリンピック 4x100メートルリレー銀メダリスト)

【講演概要】北京オリンピックの予選から決勝までの25時間は生きた心地がしなかった。...。塚原は扱いにくい選手、気持ちにムラがあり、練習にも遅れるどころかこない時もあった。塚原の憧れの選手だった末次は彼に言うことを聞かせた。末次の言うことは聞く。塚原は私と末次が抜けた後チームをリードしてくれた。...。(ドーハの世界陸上の時)サニブラウンは予選



桐生選手を信頼しきれなかったのでバトンをつなぐ時ゆっくり出ている。その後、ヘッドコーチと桐生が「絶対にバトンを渡すから、思い切り出る。信じてやってくれ」ということでちょっとずつ信頼関係が生まれてきて、決勝は綺麗に渡った。...。中学時代、私はハンドボールをやっていた。当時の部活動は先生とのやりとりが全くない。怒鳴られながらやって来て強くなった。全国大会まで出られ、次のステージを迎えた。何で次のステージを迎えたかという、ハンドボールは燃え尽きて、先生には育てて貰えたが、コミュニケーションもない狭い狭い毎日・目指すべき大きなビジョン、例えばオリンピック、が無い中、毎日厳しい練習をしていると気持ちが疲弊してくるということで、「もう、チョット良いかな」とい

うことで区切りをつけた。次のステージで陸上を選んだのは自分のプロセスの中で選んで。何よりも良かったのは、陸上ではハンドボール時代とは違って変わって指導者が何も言わなくなったことだ。...。自分で考えられる環境を与えようということで、放置でなく、自分で色々考えられるような、自主性が出るような、主体性が出るようなこと、例えば専門の技術を知っている専門の指導者のところに連れて行ってくれる、或いは違う学校と共同練習をしてその結果を学んでくるとか、そういう環境を与えてくれた。

第二部 トークセッション テーマ: 「今子どもは」 事例報告

講師: 伊東利幸氏(元小学校教諭、障がい者相談支援センター職員)、廣田典子氏(吹田市職員)

コーディネーター: 村田芳昭(NPO 塾全協西日本ブロック事務局長、共学館義塾塾長)



【概要】

伊東: ボランティア団体太陽の広場は子ども達が放課後ゲームをしないで運動場で走り回って遊ぶ場所。村田先生は放課後は自由にすべきという意見だが、今の子は自由にさせたらゲームになる。

廣田: 大学を出てから大阪ガスで社会体育の仕事をしていた。その後吹田市の教育委員会から社会体育の指導をしないかとの話がありしている。介護予防の仕事もしているが、80、90を過ぎていても元気なお年寄りが沢山いて、お年寄りから元気を貰っている。

村田: チャイルドライン、このシステムは分かりにくいと思うが、もう少し教えていただきたい。

伊東: チャイルドラインは1960年代に北欧で始まり、今日本では約70団体が実施団体として行っている。・・・チャイルドラインは18歳までの子どもたちの専用電話。勿論相談も受けるが、雑談でも良い。自殺についての相談電話がある。・・・そんな中で一番に思ったことは、思っただけなのに、私の電話の後で自殺しないでくれということだった。

村田: 子ども達は同じ塾の教室で機械(携帯)でしゃべっている。今、休憩時間に教室から出て来ない。10分の休憩時間にラインの整理をしなければならないから、休憩時間に出てこない。

伊東: スマホの流れは止められない。その中で考えなければならない。親の側から持たせるのではなく、子どもの側が持ちたいと行って来たときにルール化する必要がある。

村田: 一時よりパソコンを知らない若者が出て来た。スマホで済ませている。何か気になることがあるか?

廣田: 英語より国語。国語力が大切。算数の問題も国語力がないために出来ないということを知ったことがある。スマホでなく、「しゃべる」ことで、家族でも友だちでも話すこと...「おはよう」も最近言わない...しゃべることが大切である。

村田: 面と向かって話す機会が子どもたちに少なくなっている。

伊東: 電話で50分無言というのもあった。また聞きづらかったときに聞き返せる子か、返せない子か...神経を使いながら対応している。

大会宣言

国連によれば、世界の人口は、2050年には現在の72億人から98億人へと増加することが予想されています。それに伴い、現在以上の食糧問題、エネルギー問題、医療問題、宗教問題などに見舞われる事が心配されます。翻って、日本国内では、ますます進む少子高齢化による生産年齢人口の減少、中山間部における地域社会の崩壊、国際競争力の低下などの直面している喫緊の課題もあります。

我々は、次世代を担う子どもたちが新しい技術や社会システムを構築して、今後予想されるこれらの危機を乗り越えていくことを期待しますが、まずは、子どもたちを預かる我々自身が、日々の学習指導のみならず、現在子どもたちを取り巻く諸問題についての解決策を探る取り組みと研修を重ね、次代の人材育成に寄与していかなければなりません。

そこには、狭く教育業界の中だけに留まらず、産業界・スポーツの世界などにも見分を広げ、今、混迷する世情やますます進む情報化、多様化する価値観の中にさらされている子どもたちのために、直接、子どもたちと対峙する数少ない大人として、彼らの道標(みちしるべ)となるべく、研鑽を積んでいく必要があります。

NPO 塾全協は発足以来、江戸時代の私塾を源流として発展してきた私塾の長い歴史の中で、「学力の下支え」とその実践に裏付けられた具体的な貢献を果実として活動してきました。昭和から始まり、平成、そして令和へと、やがて半世紀を迎える活動では、どの時代でも「研修の塾全協」を標榜してきましたが、その活動の中身は、いずれも民間教育の立場から人材づくりを通してこの国の発展、ひいては世界の平和に寄与していけることを目的としたものでした。今後の時代も引き続き「教育の下支え」のもとに、自己研鑽とNPO 塾全協としての活動を重ねてまいります。

本日の研修大会をその一助として決意を新たにし、大会宣言といたします。

2019年11月4日

NPO 塾全協 第45回全国研修大会 in 大阪 実行委員長 杉山 信良



大会宣言を読み上げる杉山信良実行委員長

全国研修大会を終えて

実行委員長 杉山信良 (大阪府柏原市 栄光塾)

「道頓堀で、全国研修大会をやりましょう！」3年前、道頓堀で西日本ブロックの忘年会を行った際に、後田多先生がそう宣言された。

道頓堀で行うとなれば、徒歩圏内に暮らす者としては、他のメンバーに譲る訳にはいかないと思い、早速、企画案を作成。沖縄研修大会の一か月後の話である。

実行委員会では、「大阪に因んだ人物を講師に」という企画案の元、吉本興業の大崎会長を推す声があり、交渉の結果、大阪本社勤務の田中副社長(明石家さんま元マネージャー)に決まっていた。折からの不祥事で、先方には「東京からクレームがついた。」と断りを入れ、「基調講演は無しで」という声もあった中、朝原信治氏を紹介していただいたのが、研修大会の二カ月くらい前であった。

朝原氏には、次世代の選手育成というテーマで講演を依頼したところ、期待以上の内容で、よく準備して来てくださった事がお話を伺って感じられた。

その中でも、「指導者が限界を設定する事で、選手の成長を止めてしまう。」というエピソードは、子どもたちを指導する者として、深く印象に残った。

二部のトークセッションも、ざっくばらんな雰囲気が大阪らしく、懇親会後の二次会では、伊東先生と廣田氏のお話の内容を酒の肴に盛り上がる場面もあり、実行委員長としては、我が意を得たりの心境であった。

参加者は多くはなかったけれども、西日本ブロック主催の研修大会としては珍しく、大阪の私立高校の先生方の参加も見られ、成功裏に終わったのではないかと胸をなでおろしている。

NPO 塾全協東日本ブロック東京地区主催 経営研修会

日時：2019年(令和元年)11月13日(水) 13:00~14:30

テーマ：学習塾の生徒募集のこれから

場所：アットビジネスセンター池袋駅前別館 801号室

講師：小林広典氏 (PSコンサルティング・システム代表)

主に新聞チラシ関係のことで講演していただきました。



NPO 塾全協西日本ブロック忘年会に参加

日時：2019年(令和元年)12月15日(日)・16日(月)

場所：涼流旅館「芹生(せりょう)」(京都大原三千院の向かい)

参加者数：17名(うち東日本ブロック会員5名)

デュークエイセスの「女ひとり」で知られる京都三千院でした。



NPO 塾全協東日本ブロック 教材教具店

日時：2019年(令和元年)12月18日(水) 10:30~13:30

場所：柏商工会議所 4F

参加企業数：16社

来場者数：約60名



中学3年生対象 高校入試会場もぎテスト

進研 Vもぎ

Vもぎ過去問集、
魚内テストも大好評です!

進学研究会

首都圏最大、圧倒的参加者数!
志望校判定はVもぎにおまかせください。

子供たちの輝く未来を応援する育伸グループ

Human Orbit of Publishing and Education

Hope

教育図書出版
株式会社 育伸社

http://www.kushin.co.jp

2 塾合同ブリティッシュヒルズ英語合宿

NPO 塾全協全国事務局長、東日本ブロック広報局長 中村基和(むさし野ゼミナール 東京都中野区)



2019年(令和元年)10月26日(土)・27日(日)

場所:ブリティッシュヒルズ(福島県新白河)

参加塾:北辰館スクール(千葉県松戸市)、むさし野ゼミナール(東京都中野区)

参加生徒数:13名(北辰館スクール11名、むさし野ゼミナール2名)

引率:3名(沼田会長、沼田夫人、中村)

NPO 塾全協では3年前までは毎年新白河の英語研修・リゾート施設であるブリティッシュヒルズで英語合宿を実施していましたが、ここ2年間は休止していました。しかし、NPO 塾全協会長の沼田先生や私はここが大好きで、沼田先生の塾でハローウィーン企画開催中のブリティッシュヒルズでの合宿を計画していると耳にしました。私の塾の生徒でブリティッシュヒルズによく行くという某私立小学校の生徒が、ハローウィーンの合宿には行ったことがないので行きたいと言うので、便乗させてもらうことになりました。

当日は11:45に東北新幹線の新白河駅に集合。そこからバスに乗って現地に行きました。まずは昼食。この食堂はハリーポッター風です。そのあとはCheckinとOrientation。そしてハローウィーンパレードの準備です。パレード中にいくつかの館に行き‘Trick or Treat’と言って飴などをもらいました。

ハローウィーンパレードが終わると Lesson。今回は小学生と中学生に分けました。難し目のものも含めて盛り沢山でした。そのあとは自由時間です。



←売店の店員も仮装しています。



↑大食堂での食事



↑生徒の顔をばかしたらホラーっぽくなってしまいました。



↑単語のシラブル連結ゲーム。たとえばpreとhistoricでprehistoric。これは難しい!



↑小学生のグループのLesson。

翌日は朝食後 Check-Out。その後外の展望台まで歩きました。学校でここに2回来たことがあるという生徒も展望台は初めてだと言っていました。その後前夜に与えられたテーマについて各自英語で発表。C風学生は「...についてどうおもうか、またその理由は」というようななかなか高度のもので、沼田夫人と私が英作文の助けもしました。最後に恒例のCooking Scones。

今回の先生はただ作り方を教えるだけでなく、生徒一人ひとりに話しかけて世間話をするという初めて見るやり方でした。なかなか良いですね。



↑発表する小学生。

今回はNPO 塾全協の行事としてではなく、会員塾の中での私的業務提携ということで合宿を行いました。引率者の交通費、宿泊費は自腹を切ることになりましたが、これは仕方ありません。1塾だけでは中々人数が集まりませんが、複数の塾で連携すればできることなので、今後も機会があったらやりたいと思っています。なお、右の写真は私(中村)です。大受けしました(笑) Japanese phantom called *Ittanmonen!*

